

いのちをもちたらずみおしえ

(申命記32・45～47)

一、モーセの歌

45節に、**「モーセはイスラエル全体にこのことばをみな語り終えて、」**とあります。この時モーセは120歳になっておりまして、間もなく死ぬことを、主から告げられていました。モーセは何を語ったのでしょうか。1節前の44節を見ると分かかります。**「モーセはヌンの子ホセアと一緒に行って、この歌のすべてのことばを民の耳に語り聞かせた。」**とあります。45節の**「このことば」**は「モーセの歌」であったことが分かります。「モーセの歌」とは、32章1節より始まり43節まで記されていることばです。これが歌なのか、と思いたくありませんが、「歌」と書かれています。「歌」が始まる前の、31章30節に**「モーセはイスラエルの集会全体に聞こえるように、次の歌のことばを終わりにして唱えた。」**とあります。

32章44節に戻りますが、**「モーセはヌンの子ホセアと一緒に行って、この歌のすべてのことばを民の耳に語り聞かせた。」**とあります。**「ヌンの子ホセア」とは、モーセの後継者として主が指名されたヨシユアです。**

なぜ、歌という形で民に語り聞かせたのでしょうか。それは、暗唱すること

によって、暗唱者のものになったからです。詩篇に、**「主のことばは混じり気のないことば。土の炉で七度試され純化された銀。」**とあります(12・6)。

このことばを暗唱し続けられ、暗唱した人のもになります。あるいは、**「主のおしえは完全で、たましいを生き返らせ、主の証しは確かで、浅はかな者を賢くする。」**(略)それらは、**「金よりも多くの純金よりも慕わしく、蜜よりも蜜蜂の巣の滴りよりも甘い。」**とあります(詩篇19・7～10節)。これを口ずさむことにより信仰者は、「神のことばは完全なのだ」「たましいを生き返らせるのだ」「確かなのだ」「浅はかな者を賢くするのだ」「金よりも純金よりも慕わしいのだ」「蜜よりも蜜蜂よりも甘いのだ」と、暗唱した人のもになります。そうなのです。歌というのは、私共のたましいに対する教育的な効果があります。モーセはヨシユアと共に「モーセの歌」を民の耳に語り聞かせましたが、その意図は、信仰を引き継がせて行くためのものであったと考えられます。

二、信仰を継承する

【ほぼ具体例なので省略します。】

ユーチューブをご視聴ください。】

三、いのちをもちたらずみことば

45節、46節をご覧ください。**「モーセはイスラエル全体にこのことばをみな**

語り終えて、彼らに言った。「あなたがたは、私が今日あなたがたを戒める、このすべてのことばを心にとどめなさい。それをあなたがたの子どもたちに命じて、このみおしえのすべてのことばを守り行かせなさい。」とあります。45節の**「このことば」**が「モーセの歌」であったことは、すでに確認しました。46節になりますと、**「このすべてのことばを心にとどめなさい」とあり、また「このみおしえのすべてのことばを守り行かせなさい」とあります。それは、「モーセの歌」だけでなく、聖書のことば全体になります。旧約の人々は、それを律法と呼びました。律法(トラー)のことばの意味は「法」であり、「教え」です。ですが、律法の概念は広いです。**

先ほど、詩篇19篇を引用しましたが、そこに出てくる**「主のおしえ」「主の証し」「主の戒め」「主の仰せ」「主からの恐れ」「主のさばき」**は、いずれも「律法(トラー)」、私共のことばで言う旧約聖書を指しています。その律法の言葉を、**「心にとどめなさい。それをあなたがたの子どもたちに命じて、このみおしえのすべてのことばを守り行かせなさい。」**と語られています。

イスラエルは、後のユダヤ人たちは、律法を自分たちの心にとどめ、子どもたちに教えて、守り行わせることによって、信仰が継承されて行ったことを知りま

47節をご覧ください。**「これは、あなたがたにとって空虚なことばではなく、あなたがたのいのちであるからだ。このことばによって、ヨルダン川を渡って行って所有しようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くことになる。」**とあります。主のみおしえは、言い換えるなら律法(トラー)は、言い換えるなら旧約聖書は、むなしなことばではなく、いのちをもちたらずみことばです。これが、ユダヤ人たちの、聖書に対する感覚のようです。

私たちは、熱烈なユダヤ教徒からキリスト者になったユダヤ人パウロのことばに影響されていますから、パウロ的な見方をしてしまいます。パウロはキリストの福音の教理を守るために必死にユダヤ人たちと戦いましたから、ユダヤ人を斜めから見えています。

ですが皆様は、旧約聖書を読んで、「ユダヤ人の信仰は変だな」と思ったことはありませんか。ないですよ。現に私たちは旧約から様々なことを教えられます。そういうわけで、旧約時代の人々の信仰は、「ユダヤ教」とは言わずに「旧約信仰」と言つのが正しいです。旧約のみおしえはユダヤ人にいのちをもちたらずみことばとして旧約のみおしえは主イエス・キリストによる救いを指し示しています。こうして、私共は旧約聖書を読んで、主イエス・キリストへの信仰がさらに燃やされるわけです。